

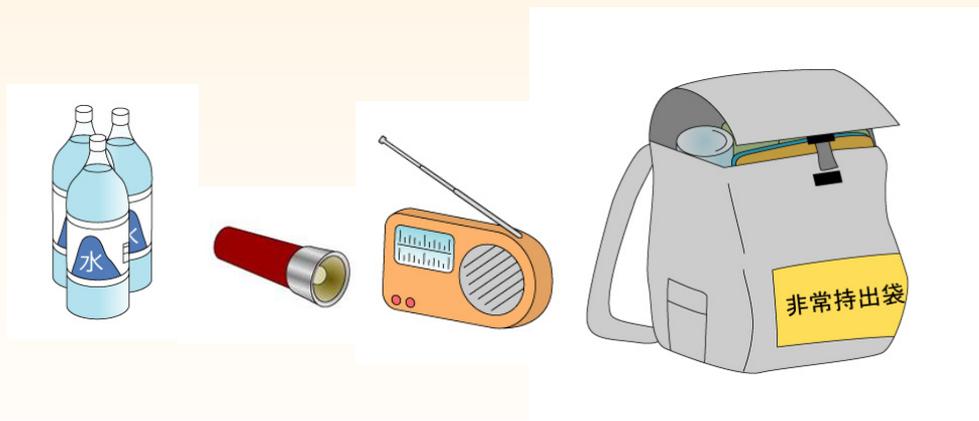
ゆりが丘・みどり台 地区防災マニュアル

「地域ぐるみの防災体制」

～自分たちの地域は自分たちで守る～

ひもを通して目立つところにおきましょう

家族で定期的に確認しましょう



名 取 市

ゆ り が 丘 ・ み ど り 台 地 区

目 次

| | |
|-----------------------------|-------|
| 1. はじめに ----- | P 1 |
| 2. ゆりが丘・みどり台地区について ----- | P 1 |
| 3. ゆりが丘・みどり台地区の災害対応計画 ----- | P 2 |
| 4. ゆりが丘・みどり台地区防災マップ ----- | P 5 |
| 5. ゆりが丘・みどり台地区の災害予防計画----- | P 7 |
| 6. 過去の災害と教訓について ----- | P 9 |
| 7. 我が家の防災メモ ----- | P 1 1 |

ゆりが丘・みどり台地区の避難場所など

1 はじめに

名取市では、東日本大震災の教訓や豪雨災害の経験を踏まえ、平成25年12月に自分の命は自分で守ることを基本とし、防災・減災への取り組みを示した「名取市民防災マニュアル」を作成し、全世帯に配布しました。しかし、大規模災害による被害を軽減するためには、地域の実情に応じた防災対策を、名取市と地域の皆さんが一体となって実施していくことが重要です。

このマニュアルは、名取市が地域の代表の方と一緒に作成したもので、ゆりが丘・みどり台地区で想定する災害やその対応方法などを示したものです。

2 ゆりが丘・みどり台地区について

地形・地勢

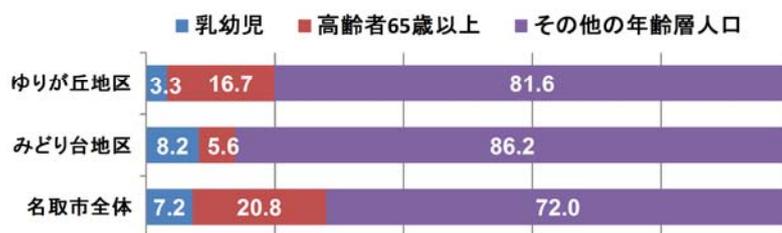
- ゆりが丘・みどり台地区は市の北西部に位置し、南北に約2.0km、東西に約1.9km、面積は約1.9km²、標高は60～210m程度です。
- 丘陵地帯の団地なので土砂災害の危険箇所があります。
- 地盤は比較的強固なものとなっていますが、高台なので断水しやすい傾向があります。



世帯・人口

- ゆりが丘・みどり台地区は、2,268世帯、6,906人が住んでいます。
- 名取市全体と比較すると高齢者などの割合が少なく、日中は通勤・通学により地区を離れている人が多い地区です。

ゆりが丘・みどり台地区の年齢層別人口



| 地区名 | 世帯数 | 人口 | 乳幼児 | 高齢者 65歳以上 | その他 年齢層人口 |
|--------|--------|--------|-------|--------------|--------------|
| ゆりが丘地区 | 1,785 | 5,207 | 171 | 867 | 4,169 |
| みどり台地区 | 483 | 1,699 | 139 | 95 | 1,465 |
| 名取市全体 | 29,146 | 77,072 | 5,559 | 15,995 | 55,518 |

平成28年1月末現在

風水害から命を守るために

ゆりが丘・みどり台地区には、急傾斜地などがあるため土砂災害が心配されます。



1 対応の基本

- ・ 浸水しない安全な場所に避難する。建物の2階に避難（**垂直避難**）する。
- ・ がけや斜面の近く、浸水しやすい土地の平屋では、早めに避難する。
- ・ 浸水時の避難は、極力避ける。冠水時は、車の運転をしない。

2 風水害への対応計画（タイムライン）

土砂災害や洪水、落雷などから命を守るため、状況に応じ適切な行動をとりましょう。

台風や強い雨雲が接近するとき。
大気の状況が非常に不安定

テレビ・ラジオ等で情報を得る。
不要な外出を控える。

積乱雲の予兆現象を見たとき。

- ・ 辺りが急に暗くなる。
- ・ 雷が聞こえる。
- ・ 冷たい風が吹いてくる。

ゲリラ豪雨や落雷、竜巻
が予想される。
直ちに屋内に避難する。



大雨・洪水警報の発表
強い雨、道路が冠水

外出を控える。
無理な運転をしない。



土砂災害警戒情報が発表され
強い雨雲の接近が予想される。
市が避難準備情報を発表
又は避難勧告を行う。

避難の準備（「垂直避難」を含む）
テレビ・ラジオ等の情報に注意する。
がけや斜面の近く、低地の平屋では、早
めに安全な建物に避難するか、非常持出品
を持ち市の開設した避難所に避難する。避
難した場合は、地域で助け合いましょう。

1時間に100ミリの雨を観測し
記録的大雨情報が発表
3時間に150ミリの雨が予測され
大雨特別警報が発表
市が避難指示等を行う。

安全な場所に避難する。「垂直避難」
がけや斜面の近くでは斜面から離れた2
階や近くの安全な建物に、低地の平屋では
近くの安全な建物に緊急避難する。
浸水時の避難は極力避ける。

周辺河川がはん濫しそうなとき。
市が避難勧告等を行う。

安全な場所に避難する。「垂直避難」
河川の近くや低い土地の平屋では、早め
に避難する。
浸水により避難が危険な場合は、近くの
2階建ての建物に緊急避難する。

地震から命を守るために

東日本大震災を経験したから「地震はもう大丈夫」と思いがちですが、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震のような直下型地震は、想像を絶する被害をもたらします。



名取市の北には「長町－利府断層」などがあり、地震への備えも必要です。

1 対応の基本

- ・まず自分と家族の身を守る。
- ・一時避難場所である公園などに避難し、自主防災会（防災会）で安否確認を行う。
- ・集会所で炊出しなどを行い、災害時要支援者を支援する。

2 地震への対応計画（タイムライン）

地震から命を守るため、状況に応じ適切な行動をとりましょう。

緊急地震速報や揺れを感じたら

倒れやすいものから離れ、頭を守る。
火の始末は揺れが収まってから。
外にいる場合は、ブロック塀や自販機等倒れやすいものから離れ、落下物に注意する。



揺れが収まったら

火元や家族の安全を確認する。
隣近所へ声をかけ、お互いの安全を確認する。
ラジオなどで情報を入手する。
海の近くでは津波の用心。



家屋が倒壊しそうな場合

電気のブレーカーをおろし、ガスの元栓を閉める。
非常持出品を持って指定避難所へ避難する。



余震などで不安な場合

一時避難場所に集まり、余震が収まってから家に戻る。

防災会の活動

- ・安否確認、避難誘導
- ・情報収集や情報伝達
- ・初期消火、救出・救護活動
- ・集会所など一時避難場所の開設、炊出し
- ・指定避難所の運営協力、災害時要支援者の支援



地区全体の対応

地区全体の情報を公民館に集約する。
防災会の代表などが集まり、給水活動や情報伝達、避難者や災害時要支援者の支援を行う。



避難所の開設・運営への協力について

東日本大震災の名取市では、震災当日約 50 か所の避難所に約 1 万 1 千人が避難し、停電で真っ暗な中、余震などで不安な夜を過ごしました。長期の避難生活を余儀なくされた方は、地域の皆さんの温かい支援などにより、避難所の自主運営を行いました。

避難所

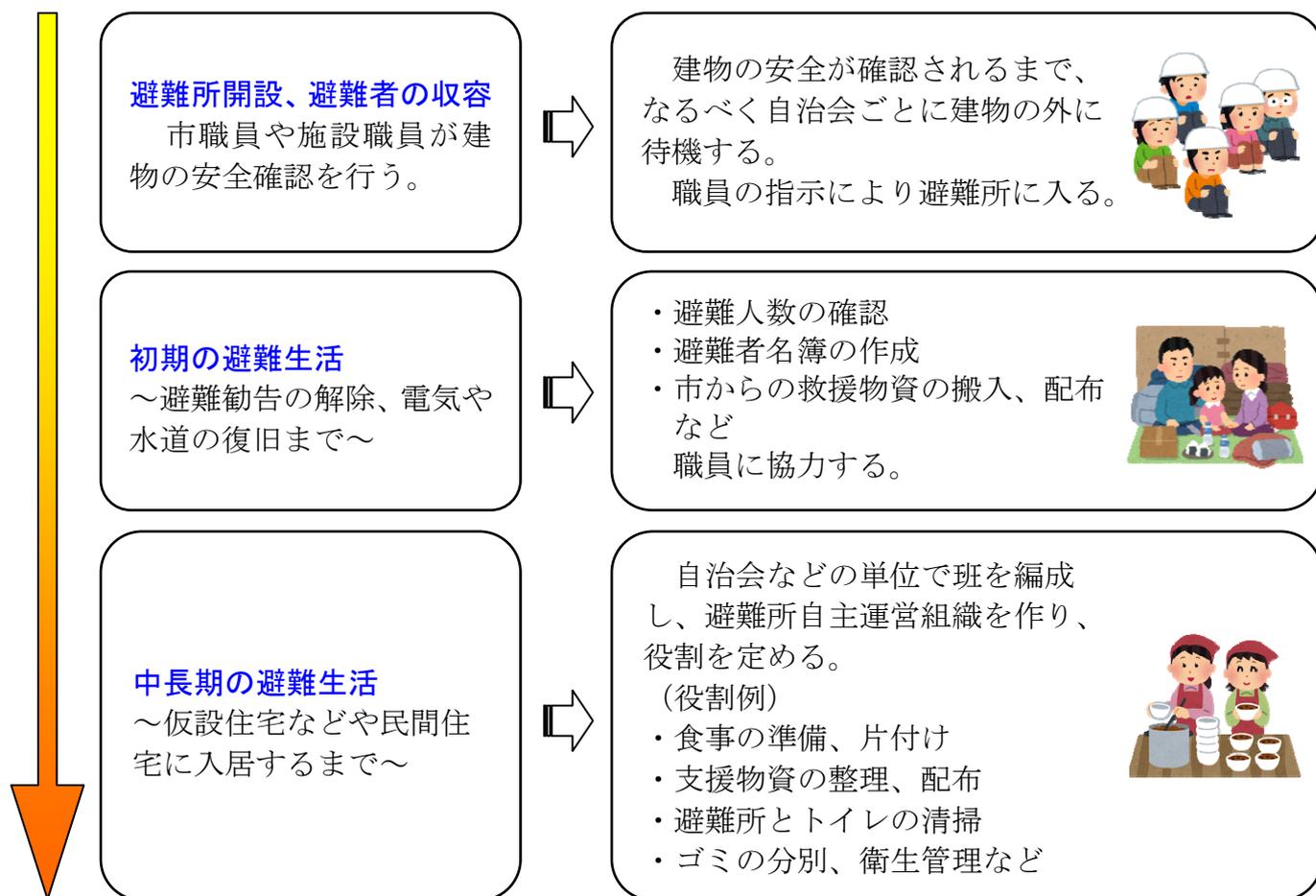


1 対応の基本

- ・市職員や施設職員、自治会役員に協力し、一体となって避難所を運営する。
- ・高齢者や妊産婦などの災害時要支援者を思いやり、女性や子供に配慮してより良い環境を作る。

2 避難所運営の対応計画（タイムライン）

避難の段階に応じて、助け合って避難生活を送りましょう。



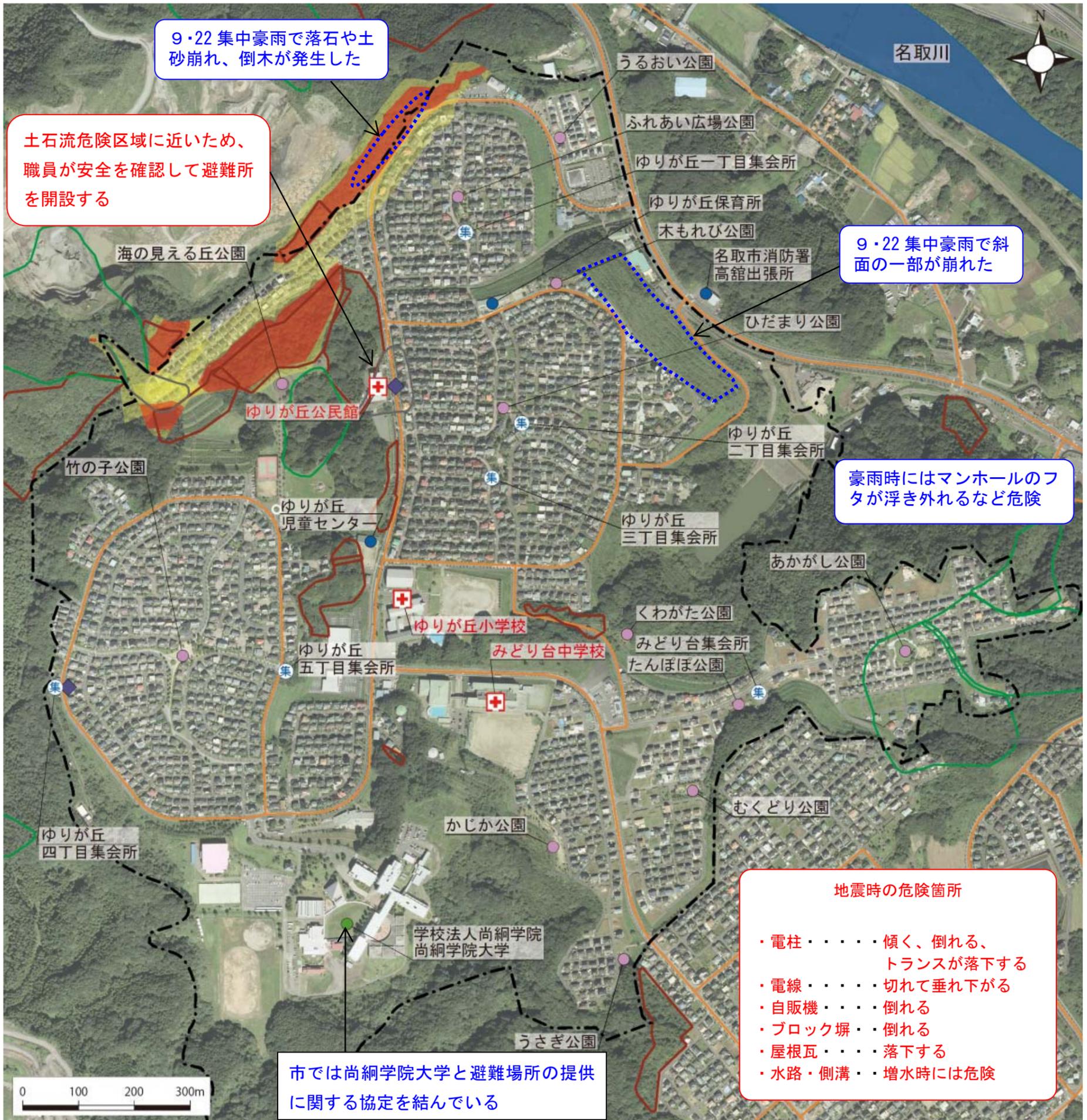
●避難所への物資の持ち寄り

救援物資は、発災直後は届きません。

市からの支援が届くまで、各自で食料や防寒着、ミルクやオムツ、毛布などを持ち寄ることが重要です。

4 ゆりが丘・みどり台地区防災マップ

道路の浸水箇所や地震発生時の危険箇所などを把握し、避難経路を事前に考えておきましょう。
土砂災害危険箇所の近くでは、隣近所に声をかけ、早めに避難しましょう。



| 凡 例 | | | | | | |
|-----|--------|--|--------|--|----------------------------|---------------------------------------------|
| | 指定避難所 | | 公共施設 | | 土石流危険溪流 | 土石流のおそれがある溪流 |
| | 防災行政無線 | | 公園 | | 土石流危険区域 | 土石流の影響が予想される区域 |
| | 道路 | | 主な民間施設 | | 急傾斜地崩壊危険箇所 | がけ崩れのおそれがある、勾配が30度以上で高さ5m以上の斜面で、人家などがある箇所 |
| | 地区境界線 | | 集会所 | | 土砂災害特別警戒区域 (平成27年度指定予定) | 土砂災害が発生した場合、建物に損壊が生じ、生命や身体に著しい危害が生じる恐れがある区域 |
| | | | | | 土砂災害警戒区域 (平成27年度指定予定) | 土砂災害が発生した場合、生命や身体に危害が生じるおそれがある区域 |

●土砂災害警戒区域・特別警戒区域の指定について

宮城県は、早期避難を促すために、全ての急傾斜地危険箇所や土石流危険箇所などを、5年以内に土砂災害警戒区域や特別警戒区域に指定する予定です。



最新の情報は、県の土砂災害危険箇所図公表システムで

確認できます。(<http://www.dobokugis.pref.miyagi.jp/>)

ゆりが丘公民館は、土石流危険区域に近いので、土砂災害の恐れがある場合には、ゆりが丘小学校やみどり台中学校を早めに避難所として開設し、お知らせします。

●土砂災害の前兆現象

このような現象を見たらすぐに避難をしてください。

土石流



- ・山鳴りがする
- ・急に川の水が濁り、流木が混ざり始める
- ・井戸、沢の水が濁る
- ・地鳴りがする

地すべり



- ・地面がひび割れ、陥没
- ・がけや斜面から水が吹き出す
- ・井戸、沢の水が濁る
- ・地鳴りがする

がけ崩れ



- ・がけにひび割れができる
- ・小石がパラパラと落ちてくる
- ・がけから水が湧き出る
- ・地鳴りがする

5 ゆりが丘・みどり台地区の災害予防計画

みんなで災害予防活動に取り組みましょう。

個人でできること（自助）～自分の命は自分で守る～

1 転倒防止対策の実施

家具類の固定のほか、配置に工夫し、高いところには重い物を置かないようにしましょう。また、タンスや食器棚等のドアが開かないよう防止することも有効です。

2 非常持出品と災害備蓄品の準備

自分で持てる程度の非常持出品を用意するとともに、飲料水や食料、懐中電灯や携帯ラジオ、救急用品などを準備しましょう。



1日3リットル
3日分



非常食(缶詰、レトルト食品など)
3日分



携帯ラジオ、
懐中電灯、乾電池



常備薬、お薬手帳



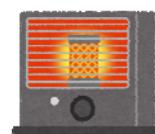
紙おむつ、粉ミルク、
哺乳瓶など



スリッパ、軍手、現金など



カセットコンロ、
コンロ用ボンベ



石油ストーブ

3 災害に対する話し合い、事前の取決め

ゆりが丘・みどり台地区防災マップ（5ページ）を確認し、家族の状況（11ページ）、我が家の状況（12ページ）などに書き込んで、家族で確認しましょう。

4 防災訓練への参加

実際に訓練しないと、いざという時に行動できません。自治会などの防災訓練に参加しましょう。

5 隣近所とのコミュニケーション

災害時、いざというときに頼りになるのは隣近所の方々です。お互いに協力できるよう、日頃からコミュニケーションをとりましょう。

防災会でできること（共助）～自分たちの地域は自分たちで守る～

1 防災会の活動

ゆりが丘・みどり台地区には6つの自治会がありますが、平成20年度までに全ての自治会で防災会を設立し、名取市で最初に組織率100%を達成しました。

防災会は、防災マップの作成や防災資機材の整備、防災訓練や啓発活動等、他の地区の模範になっています。

2 防災訓練

防災会は、消防署などの指導により訓練方法を学習した後、東日本大震災での教訓を踏まえ、工夫を凝らした防災訓練を行っています。

- ・防災マップによる危険箇所の点検や避難訓練
- ・水消火器を使った初期消火訓練、バケツリレー
- ・救急講習、応急手当訓練、AEDの操作訓練
- ・防災資機材の展示や操作訓練
- ・炊出し訓練
- ・防災講話（知識の習得、家庭備蓄の再点検）



初期消火訓練

3 特色のある取組、参加者を増やす工夫

次のような取組を行っている組織もあります。

- ・避難誘導や人命救助を行う「タスケ隊」を創設
- ・防災会の行動指針や防災計画を定め、災害時の対応や平常時の活動について定め、訓練を実施
- ・独自の防災マニュアルを配布
- ・参加者を増やし親睦を深める芋煮会を兼ねた炊出し訓練



防災用品の展示

ゆりが丘・みどり台地区でできること（共助）～地域ぐるみの防災体制をつくる～

1 防災会の連合会の設立

ゆりが丘・みどり台地区では、防災会の活動が充実しているため、地区全体の協力体制の充実とさらなる防災活動の推進を図るため、防災会の連合会を設立しましょう。

2 地区防災訓練の実施

防災会単位での防災訓練とともに、避難所となるゆりが丘小学校やみどり台中学校と連携し、地区全体の防災訓練を実施しましょう。

3 防災講座、防災研修会の実施

防災講座の開催、防災会の情報交換等により、相互連携を行い自主防災活動の向上を図りましょう。

名取市内で被害が発生した主な災害です。

| 災害名称及び 災害発生日 | 災害による被害状況と当時の状況 |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 宮城県沖地震 昭和 53 年 6 月 12 日 (仙台市で震度 5) | ブロック塀の倒壊などによる死者、建物被害による多くの負傷者が発生し、都市ガスなどライフラインが停止しました。 名取市では、負傷者 200 人、全壊 17 棟、半壊 61 棟、一部損壊 1,623 棟の被害がありました。 |
| 8・5 豪雨 昭和 61 年 8 月 5 日 (累計雨量 400 ミリ) | 台風 10 号の進路に、海上から多量の水分を含む東風が吹き込んだことにより、宮城県で記録的な豪雨となりました。 名取市では、軽傷 2 人、全壊 1 棟、一部損壊 10 棟、床上浸水 310 棟、床下浸水 1,410 棟の被害がありました。 |
| 9・22 集中豪雨 平成 6 年 9 月 22 日 (時間雨量 84 ミリ、 累計雨量 478 ミリ) | 樽水ダムが満水となり、増田川がはん濫したほか、川内沢川、志賀沢川などの中小河川がはん濫しました。 名取市では、軽傷 1 人、全壊 2 棟、半壊 2 棟、一部損壊 8 棟、床上浸水 946 棟、床下浸水 1,737 棟、河川の損壊 15 か所、道路の損壊 129 か所、がけ崩れ 35 か所などの被害がありました。 ゆりが丘・みどり台地区では、建物の浸水被害はありませんでしたが、斜面で土砂崩れや倒木が発生し、道路が通行不能になりました。 |
| 東日本大震災 平成 23 年 3 月 11 日 (名取市で震度 6 強) | マグニチュード 9.0 の巨大地震により、強い揺れが約 3 分間継続し、巨大津波により市内で 911 人が犠牲になりました。 4 月 7 日の深夜には、名取市で震度 6 弱の余震も発生しました。 ゆりが丘・みどり台地区では、大きな建物被害はほとんどありませんでしたが、電気、水道、都市ガスなど、ライフラインが停止しました。受水タンクの水が約 1 日で尽き、高い所から徐々に断水していきました。 |



9・22 集中豪雨



9・22 集中豪雨

●東日本大震災におけるゆりが丘・みどり台地区の対応

(1) 防災会などの対応

ゆりが丘・みどり台地区では、全ての自治会で防災会が設立されていました。防災会では、町内の安全確認、高齢者などの災害時要支援者等の安否確認を行ったほか、集会所に一時避難所を開設し、炊出しなどを行いました。給水車の到着後には、給水の周知や給水活動を行いました。届けられた支援物資を災害時要支援者などに配布しました。

(2) ゆりが丘・みどり台地区で苦労したこと

- ・電話が不通になり、安否確認などに時間を要しました。
- ・断水で飲料水とトイレの水の確保に苦労しました。
- ・停電で照明の確保と情報入手に苦労しました。
- ・物流が止まり、食料やガソリンの入手に苦労しました。

(3) 反省点

災害発生が平日の日中など仕事などで不在の役員が多く、若い人が少ない時に、誰が何をするのかシミュレーションしておく必要があります。

電話が不通になり情報伝達手段がなくなったため、給水情報を一軒一軒に知らせて回りました。情報伝達手段の確保や伝達方法について定めておく必要があります。

物資の配布等で、事前の取決めや経験がなく苦労しました。

(4) 震災後の意識の変化

防災意識が高まり、防災訓練の参加者が増えました。

非常持出品や災害備蓄品を用意し、こまめに自動車の給油を行うようになりました。

防災会では、地域の危険箇所の点検や防災訓練の充実、啓発活動に力を入れるようになりました。

※ これからは、震災の記憶や教訓を風化させない取組が大切になります。



東日本大震災



東日本大震災

7 我が家の防災メモ

<家族の状況>

| 氏名 | かかりつけの病院 | 携帯電話番号 |
|-------------------|----------|-------------|
| 生年月日 | 持病・常備薬 | 会社・学校等の名称 |
| 血液型 | | 会社・学校等の電話番号 |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 避難場所 | | |
| 家族の集合場所 | | |

ゆりが丘・みどり台地区の避難場所

| 区分 | 名称 | 電話番号 | 備考※ |
|-------------------------|---------|--------------|-----|
| 指定避難所 | ゆりが丘小学校 | 022-386-3225 | 土砂 |
| | みどり台中学校 | 022-381-2032 | 土砂 |
| | ゆりが丘公民館 | 022-386-6055 | |
| 地域の一時避難場所、 自主防災組織の役員 | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

※土砂：土砂災害の指定緊急避難場所

平成28年1月現在

災害時の連絡先

| 区分 | 名称 | 電話番号 |
|---------------|---------|--------------|
| 市役所 | 名取市役所 | 022-384-2111 |
| 警察 110 | 岩沼警察署 | 0223-22-4341 |
| 消防 119 | 名取市消防本部 | 022-382-0242 |
| 名取市休日夜間急患センター | | 023-384-0001 |
| 災害伝言ダイヤル | | 171 |

親戚・知人などの連絡先

| 氏名 | 電話番号 | 備考 |
|----|------|----|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

名取市総務部防災安全課

〒981-1292 名取市増田字柳田 80

電話 022-384-2111